

「モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)について」

京都大学大学院工学研究科 都市社会工学専攻 藤井 聡 教授

多くの人々にとってみれば、考えてみたことも無いようなことかもしれませんが、「交通」つまり英語で言うところの「モビリティ」の問題は、その「社会の有り様」を決定づける、極めて重要な問題です。

例えば、多くの街は「交通の要所」として栄えてきましたし、一つの街の中でも「交通の要所」である「駅前」は、大きく発展してきました。逆に、多くの人々がクルマを使うようになった途端に、駅前やまちなかの商店街の多くは寂れ、シャッター街になってしまいました。

つまり、交通のあり方が街のかたちを決定付けているのです。

そして、交通のあり方は、一人一人の暮らしのあり方にも決定的な影響を与えています。例えばそこにバスも電車も無ければ、クルマを使えない例えば高齢者は全く外出できなくなってしまいます。あるいは交通の有り方が変われば、私たちの環境負担の大きさもまた大きく変わることとなります。

つまり、「交通・モビリティ」というものは、誰にとっても「身近」であるにも関わらず、「社会」のあり方を考えるための題材の宝庫でもあるのです。モビリティ・マネジメント教育とは、それぞれの土地の「交通/モビリティ」の問題を取り上げ、地域や個人が、それに対してどんな取り組みをしていく(=マネジメントしていく)べきなのかを考える学校教育です。近年ではその書籍も出版され(モビリティ・マネジメント教育:東洋館出版社)、今、様々な土地でその取り組みが始められています。是非皆さんも、そんな取り組みを始めてみられてはいかがでしょうか。